

発見！東北グルメ

no.3
多賀城中学校近く、国道45号線沿いに佇むラーメン店が「味噌やす」です。看板メニューの「こく味噌ラーメン」は、濃厚でどこか懐かしい味のスープが麺に絡む絶品。野菜もたっぷり入っているところがうれしいです。ライスには甘辛く炒めた挽肉を載せて出してくれるすばらしい心遣い。

店内は地元の方で賑わうアットホームな雰囲気にもまれ、おいしいラーメンが心を満たしてくれます。



もやし味噌ラーメン

支え合う多賀城を目指して

多賀城市住民が主役の復興を考えるサロン



7月24日（火）、多賀城市民活動サポートセンターにて、復興応援団主催「住民が主役の復興を考えるサロン」が開かれました。復興応援団がこれまで行ってきた活動を報告し、多賀城の今後の復興・まちづくりについて参加者全員で共に考えました。

復興応援団は多賀城市で、住民の皆さんが中心となつたまちづくり、人と人が支え合い安心して暮らせる地域づくりをお手伝いするために活動してきました。そんな未来を実現するため、仮設住宅団地の住民の皆さん

復興応援団だより

2012.8.1/ NO.5
発行元：
一般社団法人
復興応援団
広報チーム
022-393-9331

今回は約20人の地域の方に参加していただき、団がこれまで行ってきた活動や仮設住宅の現状を報告しました。そして、課題やこれから自分達にできることを参加者で共に考えました。中には、仮設住宅でお茶飲み会を開催されている方や、復興応援団と共に仮設住宅でのイベントを開催してきた方、まちづくりや地域福祉に携わる方も多く

の生活を支えるネットワークを地域の中につくろうとしています。地域の皆さん自身が「仮設住宅を支えよう」という思いを持って今活動することが、将来のまちづくりを後押しする、支え合いの仕組みに繋がっていきます。

私たちが「一般社団法人復興応援団」は、地元の方が主役となった東北地域の復興のため、活動の目標は①東北地域の各市町村・集落のファンを増やすこと②地元の人とファンが一体となつて復興とそとのつながりを取り組むこと③地元の人自身（特に若き世代）が復興とまちづくりに関与し、立ち上

復興応援団とは

「ボランティア」を全国から集める大きなうねりをおこすこと。

南三陸町では「ボランティア」を実施して、全国から参加者に、地域再生の力をお手伝いをし、地域の魅力を高め、地域を元気づけ、復興を支える活動を行います。

多賀城市で「支え合いネットワーク」づくりの事業では、今後の生活やまちづくりにもつながるような、住民の皆さんが中心になった自治コミュニティの形成を目指し、仮設住宅や見なし仮設住宅内外でゆるやかなネットワークづくりをお手伝いしていきます。

参加者の皆さんからは、「地元の方が仮設に行つた方が、住民の皆さんと打ち解けやすい」「私も傾聴ボランティアをしてみたい」「このような住民同士のつながりを大切にして活動していきたい」

「震災から時間が経つて、『支え合い』を考える時期にきている。住民が中心のまちづくりをする時だと思ふ」という声が上がりました。

今後は、今回のようなサロンを継続して開き、未来の多賀城をつくる地域の皆さんの繋がりを作り



多賀城 仮設住宅でバーベキュー

7月28日（土）、勤労青少年ホーム跡地仮設住宅で、日本赤十字社宮城県支部

ます。8月からは、仮設住宅を中心とした住民が必要とする相談窓口を掲載した

と多賀城市社会福祉協議会主催のバーベキューイベントが開催されました。住民の皆さんからのお誘いを受け、復興応援団のボランティアもお邪魔して、活動をお手伝いし、交流しました。

夏空の下、美味しいお肉がふるまわれ、団地の皆さんは会話の弾む楽しいひと時を過ごしていました。

情報誌を、地域の皆さんと共に作り、発信していきます。

呼び鈴取り付け完了

復興応援団が多賀
城市から依頼を受け、
進めてきた仮設住宅
団地への呼び鈴取り
付けが今月完了しま
した。7月は多賀城
公園野球場仮設で作
業しました。地元の
方や学生など多くの

ボランティアと、各
団地住民の皆さんの
協力で、3月からの
取り付けを無事終え
ることができました。
活動に関わった学生
ボランティアも貴重
な経験をしました。
奥村典弘さん(東北大



PICK UP!

その3 **多賀城中学校サーカス**
多賀城中学校仮設住宅に、サーカス団
がやってきました！
日時・8月16日(木) 11時
団体名・日本ホスピタルクラウン協会
とにかくだれでも無料で見に来れます！
ぜひお越しください。

7月14日(土)・15日
(日)、農業で被災者
雇用応援プロジェクト
#9を開催し、計
13人のボランティア
が参加しました。被
災者雇用で復興に貢
献することを指す
小野花匠園さんで
「はるちゃんトマト」
の収穫をお手伝いし
ました。今回で収穫
作業は最後となり、
昨年12月のトマト種
植えから続いできた

南三陸 農業で被災者雇用応援プロジェクト#9

と、前に向かう気持
ちが住民さんの笑顔
から伝わってきました。
復興にはそこに



本プロジェクトも一
区切りとなります。
小さな種を植える段

階から関わってきた
方は思い入れを込め、
張り切って収穫に臨
んでいました。初め
て参加した方も「もっ
と早くから関わりの
かったな」と、活動
に魅力を感じながら
楽しく作業しました。
初参加の社本光気
さん(東北大1年)は
「地元の人たちが前
を向いて動いている
ということを感じま
した。地元の人たち

携わる人の気持ち
から変わっていく
ことが必要。その
ためには人と人の
コミュニケーション
が大切だと感じ
ました。人の繋が
りを支える活動が
できれば」
活動を通して、
住民、学生、地域
のボランティアの
間に、新たな繋が
りが生まれ、お互
いの刺激となりまし
た。この繋がりが、
多賀城を元気にする
力になっていきます。

呼び鈴によつて住民
同士のコミュニケー
ションが一層活発に
なることを願います。

ここが見どころ観光資源

②小田の浜
今夏、宮城県内の海水浴
場で唯一営業するのが、
気仙沼市の離島大島の小
田の浜。日本快水浴場百
選のベスト3にも選ばれ
た美しい砂浜の海岸です。
津波の被害で砂に混入
した小さなガレキを、島
民の皆さんや全国からの
ボランティアが丁寧に取り
除きました。復興応援
団でも、昨年のプロジェ

▼昨年のガレキ撤去の様子



▲美しい海岸線

クトで、島のガレキ撤去をお手伝い
していたため、嬉しいニュースです。
「緑の真珠」大島の美しい象徴が
復活し、再びたくさんの人で賑わお
うとしています。

が生き生きと働いて
いるのを見て、僕は
元気をもらい、この
人たちのために自分
ができることをした
いと強く思いました。
また、ボランティア
を楽しむことも大切
なのだと思えるよう
になりました。人と
触れ合い絆を広げて
いけるプロジェクト
は今後の復興に必要
なものだと思います」
と振り返ります。

【南三陸】
8月18日(土)・19日(日)
に漁業&ブルーツーリス
ム開発応援プロジェクト、
8月25日(土)・26日(日)
に農業で被災者雇用応援
プロジェクト#10
を開催します。参加申し
込みはホームページにて。

今後の予定

程が楽しめ、活動へ
の思い入れもより強
くなります。多くの
方に参加していただ
き、南三陸町や小野
花匠園を支えるファ
ンを生み出すことを
目指していきます。